

ので、これには相当力を入れていこうと思っています。

人口減少は全体的に進んでいますので、これを食い止めるのは難しいと思いますが、人口減少だけが悪いのではなくて、人口のバランスが崩れることが問題なのだと思います。老・壮・青のバランスの良い街にするためには、やはり、若い世代を増やしていくことです。若い世代が

希望を持てるような地域づくりに力を入れたいと思っています。

それに、熊本市は熊本県のなかでは人口が集積している地域ですが、それでも空き家問題が出てきています。団地での空き家問題もあります。そういったところでも、地域のコミュニティをつくっていかないと解決できません。市政運営においては地域主義を中心に掲げています

ので、どんどん市役所の職員が地域に入り込んでいただいて、課題をつぶさに見てほしいです。そして、コミュニティづくりをサポートし、少子高齢化と人口減少社会に立ち向かっていく。そのようなコミュニティの基礎をつくることが重要だと思います。

行政と経済界が一体で観光推進を 田川会頭

松岡 それでは田川会頭をお願いします。

田川 人口減少はとても大きな問題で、都市圏将来ビジョンでもベースにおいた課題です。商工会議所では人口減少に

向けた地方創生に関わるアンケートを実施しています。今、集計中ですが、途中経過を申しますと、「人口減少が経営に与える影響」については、「売上高の減少」が42%、「人材の確保難」が34%。

「特に影響がない」が18%です。これは実情を表していると思います。もう一つ紹介すると、「地方創生に関する『しごと』づくりに関して、重点的に取り組むべき政策」についてです。複数回答ですが、



世界文化遺産に登録された三角西港(宇城市)



JR熊本駅の駅ビル計画地の0番線ホーム一帯

「地域の特性を生かした観光の活性化」が64ポイント、「地域を担う中核企業への支援」が47ポイント、「事業承継、事業再生の円滑化・産学官連携の推進」が41ポイント、「農林水産業の成長・産業化」が40ポイントです。この結果は問題点がよく捉えられていると思います。

最近になって「地方創生」と言われ始めましたが、以前から「地方の時代」と言われてきました。特に少子高齢化が予想されたなかで、これといった対策が行われず、日本創成会議の増田レポートが発表され、途端に「地方創生」という言葉が出てきました。

地方は高齢化率が高まっている中で、労働力人口が東京に一極集中する傾向にあります。ですから、地方はダブルで影響を受けています。これからも若者が東京などの大都市圏に出て行き、地方で

は高齢化が進むと考えられます。2020年の東京オリンピックが決まったときに、最初は喜んだのですが、そのうち「これは大変だ」と思うようになりました。第1回目の東京オリンピックの時も、東京礼賛の歌謡曲などがヒットし、若者を東京に引っ張っていくという状況がありました。今度のオリンピックでも若者の東京都市圏への流出が加速する可能性があると思います。現実として、地方ではすでにほとんどの業態で人手不足です。企業によっては仕事があっても受注できない状況です。例えば、家を建てるにしても、全体の工程のなかで、1カ所の工程で職人がいないと受注できません。建設業に限らず、福祉関係、宿泊業、サービス業もそうです。街中を歩いていると、「アルバイト急募」の張り紙を各所で見ますね。

これからの東京一極集中を是正しな

がら、地方創生を実現するためには観光と農業がポイントだと思います。もちろん企業誘致などの対策も必要ですが、同時に熊本の一歩の強みを生かさなければいけない。世界の阿蘇、熊本城、天草があって、そこに広大な平野がある。それらを生かして、いかに産業を振興するか。これについて熊本経済同友会の甲斐隆博代表幹事(肥後銀行頭取)とも話することがありますが、熊本は観光と農業の振興に徹底的に取り組むべきであるという認識で一致しています。この2つの分野の振興が新しい雇用を生み、人口の定着につながっていくと思います。

農業団体と連携の動き

松岡 具体的な提案はありますか。